



もっとも命の危険に近い!

第9号 「詰まる」は、どこに隠れてる?

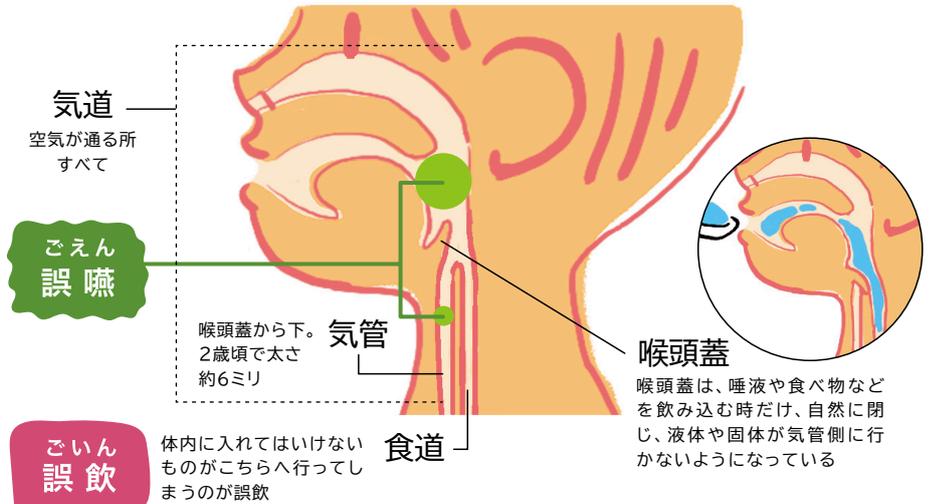
これまで、はさむ、溺れる、落ちるを取り上げてきましたが、次は、最も命の危険につながりやすい「詰まる」です。「誤飲誤嚥」とひとまとめで扱われますが、誤飲と誤嚥は違います。まずはここからです!

誤飲と誤嚥の違いは…

体の中に取り込むべきではないものを飲み込み、食べ物の通り道(食道)以降に入ること「誤飲」と言います(子どもの場合、食べ物や飲み物の誤飲もあります。例:ハチミツ、酒類)。

一方、ものが喉やその下の空気の通り道(気管)に入ることを「誤嚥」と言います。誤嚥によって喉や気管が完全にふさがれると息ができず、誤嚥窒息になります。

誤嚥窒息には、喉(気道の上部)に詰まる場合と気管(食道との分かれ道以下)に詰まる場合の2種類あります。喉には表面がツルツとしていて丸いもの(例:ミニトマト、白玉、スーパーボール等)が詰まりやすく、気管にはミリ単位の小さなもの(例:大豆を砕いたもの)も詰まります。



所 真里子

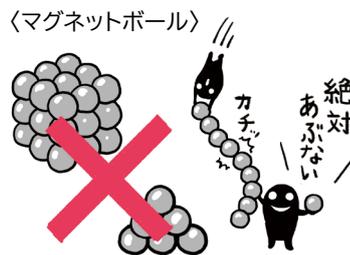


日本子ども学会常任理事、ISOガイド50(子どもの安全の指針)JIS原案作成委員会委員、保育の安全研究・教育センター設立メンバー。家政学修士(日本女子大学)。子どもの安全の専門家として研修講師、調査研究等を行っている。

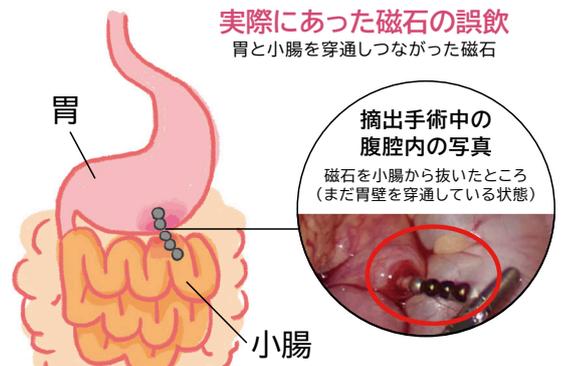
誤飲 誤飲すると危ないもの

誤飲の危なさは、飲み込んだものの特徴と形が関係しています。薬や消毒液などの化学物質、ボタン電池、磁石、水を含むと膨張する素材を使ったビーズや雑貨は、すぐに処置が必要です。また、画びょうや安全ピンなどの刺さるもの、薬の包材やシールなどのプラスチック片は、粘膜にひっかかったり体内を傷つけたことがあります。

玩具に使われているボタン電池や磁石は、中から出ないように作られてはいますが、使っているうちに緩んだり割れたりして出てしまうことがあります。また、強力な磁石を使ったマグネットボールは玩具として売られていますが、非常に危険です(右)。子どものいる環境に持ち込んではいけません。



実際にあった磁石の誤飲 胃と小腸を穿通しつなげた磁石



出典:「強力な磁石のマグネットボールで誤飲事故が発生」(国民生活センター、平成30年4月19日) http://www.kokusen.go.jp/pdf/n-20180419_1.pdf

誤嚥 食べ物が詰まる時に起きていること

小さな子どもは、飲み込んだり吐き出したりする力がまだ弱いので、誤嚥窒息しやすくなります。でも、食べたものは本来、気管の側にはいかないよう人間の体はできていますから、わざわざ気管の側に行くには理由があると考えられます。

最大の理由は、「急に息を吸い込む状態になる」です。たとえば、笑った時、泣いた時、驚いた時など、合間に大きく急に息を吸い込みます。この時、口の中に何かがあれば気管の側に行ってしまう可能性が高くなります。

また、上を向いて食べ物を口に入れば詰まりやすくなります。イスにそっくり返って食べたり歩きながら食べたりするのはお行儀も悪いですが、まずは危険なのです。

